

報道関係各位  
展覧会のご案内



画像 01  
展覧会ポスターグラフィック

世田谷文学館 学芸部

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10

TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

## 展覧会概要

- 展覧会名** 日本SF展・SFの国
- 会 期** 2014年7月19日(土)～9月28日(日)
- 会 場** 世田谷文学館 <http://www.setabun.or.jp>  
東京都世田谷区南烏山1-10-10  
電話 03(5374)9111
- 開館時間** 午前10時～午後6時(展覧会入場は午後5時30分まで)
- 休 館 日** 月曜日(ただし7月21日・9月15日は開館し、7月22日・9月16日は休館)
- 交通案内** ・京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分  
・小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用  
「芦花恒春園」下車徒歩5分
- 入 場 料** 一般 800(640)円  
高校・大学生、65歳以上 600(480)円  
中学生以下無料
- \* ( )内は20名以上の団体料金。  
\* 障害者手帳をお持ちの方は、展覧会入場料が半額になります。  
また、介添え者(1名まで)は無料です。  
なお、障害者手帳をお持ちの方で大学生以下は無料になります。  
\*7月25日(金)は65歳以上の方は無料。
- 主 催** 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
- 監 修** 筒井康隆、豊田有恒
- 特別協力** 星ライブラリ、小松左京ライブラリ、手塚プロダクション、  
円谷プロダクション、東宝、日本SF作家クラブ
- 協 賛** 岩崎書店、啓文堂書店、光文社、小学館、東京創元社、東邦ホールディングス、  
徳間書店、早川書房
- 後 援** 世田谷区、世田谷区教育委員会

本展の内容詳細については下記担当者へお問い合わせください

世田谷文学館学芸部 展覧会担当：中垣、加藤、瀬川

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

## 展覧会について

小説、マンガ、アニメ、ゲーム etc. 「日本SF」は現在、私たちの日常に溶け込み、当たり前のように楽しむことができます。一体どのようにして、このような時代を迎えることができたのでしょうか。

かつて、日本にSFを育てようと集った若き作家たちがいました。

星新一、小松左京、手塚治虫、筒井康隆、真鍋博ら、日本SFの第一世代と呼ばれる作家たちです。彼らは、日本ではまだ認知度が低かったSFをどう表現するか、読者に届けるために奮闘しました。やがて彼らの作品は、子どもや若者を中心に熱狂的に受け入れられ、今や世界を席卷する日本のアニメーションや特撮映像作品とともに大きな発展を遂げます。また、「日本SF」に親しんで育ったかつての読者たちが、現在では文化芸術や科学技術分野のほか、多方面で活躍しています。

作家たちは、未来を語るために「想像力」を磨き、それぞれの表現を追求しました。彼らの作品は、俯瞰的にものを見る大人の知力に支えられ、ひとりの人間としてあらゆる事象に立ち向かうためのヒントに溢れています。

世田谷文学館では本展覧会を「日本SF大学校」に見立て、みなさまの“来校”をお待ちしています。作家たちがSFという表現を信じ、私たちになにを、どのように伝えようとしたのか、時代背景や多彩な資料から読み解いていくとともに、「日本SF」とこれからの未来を、存分に語りあえる場所になればと願っています。

本展開催にあたり、果敢に未来に挑戦し続けるすべての人たちに、この言葉を贈ります。

**きょうの想像力があすを築く**

星新一

## 展示構成 (予定)

### 1 「開校のことば — これからの読者に向けて」筒井康隆

### 2 日本SF〈概論〉

#### ① 日本SFの父—<sup>うんのじゅうざ</sup>海野十三

科学者としての知識に裏付けされた作品を世に送り出し、後世の作家たちに大きな影響を与えた海野十三の生涯と作品の魅力を、世田谷文学館所蔵資料で紹介。

恩恵と迫害との二つの面を持つのが当今の科学だ。神と悪魔との反対面を兼ね備えて持つ科学に、われ等は取り憑かれているのだ。斯くのごとき科学力時代に、科学小説がなくていいであろうか、否！科学小説は今日の時代に必然的に存在の理由を持っている。

(海野十三『地球盗難』より)

画像 02  
日本SFの父、海野十三

小松左京や手塚治虫をはじめ、第一世代の作家たちが少年時代に、夢中になって読んだ。



#### ② 「日本SF作家クラブ」創世記トピック

日本SF作家クラブ設立時期の作品資料、作品からの引用文、豊田有恒氏のコメントを展示紹介。

#### 「日本SFサッカークラブ」?!

1963年に創立した「日本SF作家クラブ」。一般的に認知されておらず、旅先の旅館では「サッカークラブ」の名で迎えられたという伝説の証拠写真。



### ③ 日本SFの歴史から

#### ・「SFマガジン」一挙展示

日本SFの歴史そのものといえる、現在も続く雑誌の歴史を紹介。

#### ・「宇宙塵」「奇想天外」「SFアドベンチャー」「SF宝石」を紹介

#### ・「創元SF文庫」一挙展示

1963年に創刊。文庫として読み継がれる海外作品、多くの読者に愛されてきた作品の数々を紹介。

#### ・SF作品を彩る挿絵の魅力

### ④ 古典SFとは

1945年以前に書かれた日本SFについて紹介。

### ⑤ 豊田有恒の世界

日本SF第一世代として、小説・アニメーションほか多彩な才能を発揮し、牽引してきた作家の世界を紹介。

### ⑥ 日本SF史アニメーション（仮題）

漫画家の、とり・みき氏による、本展オリジナルアニメーションを公開。

## 3 日本SF専門講義

### ① 講読Ⅰ～Ⅴ

日本SF第一世代（星新一・小松左京・手塚治虫・筒井康隆・真鍋博）のコーナー。それぞれの作家の重要なキーワードから資料を紹介。

#### Ⅰ 星新一 「ショートショート1001話」

#### Ⅱ 小松左京 「SF魂」



画像 03  
星新一（左）と小松左京 1973年

日本SFを牽引した二人。東京・大阪間で交わされた夜中の電話から、どれだけ豊富なアイデアが生まれたことだろう。



画像 04  
星新一  
『人造美人』（1961年、新潮社）と  
「ポッコちゃん」下書き  
個人蔵

星新一の頭脳とも言える創作メモ。小さな文字から浮かび上がるとても大きく大きなエネルギー

### Ⅲ 手塚治虫 「ストーリーマンガ」

### Ⅳ 真鍋博 「未来創造図」

### Ⅴ 筒井康隆 「創作の極意と掟」



画像 05 ↓  
真鍋博  
『にぎやかな未来』 1978年  
愛媛県美術館蔵

真鍋作品は、今なお未来像の基礎となっている。

「未来は占ってはならない、創るべきものだ」真鍋博

星新一（左）と真鍋博 1977年  
写真提供：文藝春秋

二人のコラボレーションが、読者と未来を結び架け橋だった。

「私の作品を最も理解してくれている人だろう」星新一



## ② 技術演習 I ~ II

### I 特撮

円谷英二によってもたらされた特撮技術の発展と、日本SFの創造力を大きく育てた功績を紹介。

画像 06  
『緊急指令 10-4・10・10』の電気銃と『ウルトラマンタロウ』のZATヘルメット  
1972-1973年  
世田谷文学館蔵

(C)円谷プロ



### II アニメーション

日本で最初の本格テレビアニメーションとして放送された「鉄腕アトム」(1963年)を紹介。

### ③ 日本SF特殊講義 I～IV

#### I 大伴昌司の〈仕事〉

大伴昌司の、特に怪獣図解に代表される仕事が、いかに日本SFの魅力を増加させたのかを検証する。



画像 07  
「サンダーバード隊のひみつ基地」  
構成と文 大伴昌司  
絵 水氣隆義  
「少年キング」1967年11月5日号  
(少年画報社)より

#### II 大阪万博と〈未来〉

「人類の進歩と調和」をテーマに開催された1970年の万博には、小松左京、手塚治虫、真鍋博ら大勢のSF作家たちが関わりを持った。当時の記録から、万博が日本SFにもたらした影響を探る。



画像 08  
大阪万博テーマ館についての会議  
1968年6月25日

#### III 日本SFと〈映画〉

日本SFは、映画という媒体によって、幅広い層に浸透した。『日本沈没』『復活の日』『時をかける少女』『ねらわれた学園』『HARMAGEDON 幻魔大戦』etc. 映画と作品、双方の魅力をあらためて味わう。



画像 09  
小松左京  
『日本沈没』創作メモ  
個人蔵  
想像を絶するスケール感で、日本、世界、そして宇宙と向き合い続けた小松左京は、緻密で詳細な検証を繰り返して本作を書いた。

#### IV 〈戦争〉と日本SF

「戦争がなかったら、私はSF作家にならなかったらう」

(小松左京『小松左京自伝』)

1954年に公開された映画「ゴジラ」は、戦争と核兵器の問題を抱えた作品。日本SF第一世代の根底にある〈戦争〉とは。作品と向き合う視点のひとつとして検証する。

## 4 日本SF〈演習〉

『20世紀少年』など、日本SFを受け継いだ現代の作品を紹介するコーナー。

## 5 国民の広場

日本SFを象徴するヒーローたちと写真撮影ができるコーナー。  
ゴジラ、ウルトラマン、アトム、太陽の塔など。

## 6 図書室

日本SF（小説）の現在を、実際に手に取り閲覧できるコーナー。



## 関連イベント

### ★学外研修

#### ☆製鉄所と造船所を『体感』しよう！

日本の科学技術に触れるために、製鉄所や造船所を見学し、機械・工学・エネルギーについて学びます。

新宿駅集合・蘇我駅解散（解散場所は参加者と相談）

[共催]一般社団法人日本機械学会 動力エネルギーシステム部門

日 時＝8月1日（金）8：00～16：30

講 師＝松本亮介（関西大学システム理工学部准教授）他

対 象＝小学5年生～中学生

定 員＝23名（事前申込制）

参 加 費＝無料（ただし交通費は実費必要）

申込締切＝7月18日（必着）



製鉄所での転炉工程 提供：JFE スチール(株)



三井造船ばら積み貨物 提供：三井造船(株)

#### ☆東京海洋大学見学会

##### 「日本の海とエネルギーを考える」

刑部真弘先生の研究「海洋を利用したエネルギーネットワーク」を学び、実験室や博物館など、最先端の自然災害対策を見学します。

世田谷文学館集合・東京駅または新宿駅解散

日 時＝8月9日（土）10：00～16：00

講 師＝刑部真弘（東京海洋大学大学院教授）

対 象＝小学5年生～中学生

定 員＝20名（事前申込制）

参 加 費＝無料（ただし交通費は実費必要）

申込締切＝7月26日（必着）

#### ☆ワークショップ「世田谷ロケット」

JAXAによる科学的解説を聞いて自分たちでSF的ストーリーを創作し、オリジナルロケットを作り屋外で発射実験を行います。

日 時＝8月10日（日）14：00～16：00

講 師＝大嶋龍男（JAXA広報部 特任担当役）

会 場＝桜丘集会室

対 象＝小学生とその保護者

定 員＝20組（事前申込制）

参 加 費＝無料

申込締切＝7月27日（必着）

★円谷特撮スペシャル 会場＝世田谷文学館 文学サロン 参加費＝無料

☆「SFドラマ 猿の軍団」上映会＋トークショー

日時＝8月2日（土）上映会①14：00～ ②15：30～

上映作品＝第2話「魔境へ！脱出」、第17話「悪の軍団から親子猿を救え！」（1974年、円谷プロダクション）

※15：00より「猿の軍団」原作者と出演者によるトークショーがあります。

トークゲスト 豊田有恒（原作）、斉藤浩子（ユリカ役）

定員＝各回先着150名

☆ウルトラマンギンガ撮影会

日時＝8月3日（日）11：30～12：00

定員＝当日先着70名（当日10：30より1階ロビーにて整理券を配布します）

☆ウルトラマンギンガ上映会＋握手会

日時＝8月3日（日）13：30～

上映作品＝『ウルトラマンギンガ 劇場スペシャル』（2013年、円谷プロダクション）

定員＝当日先着150名（当日10：30より1階ロビーにて整理券を配布します）

☆ウルトラマンティガ上映会

日時＝8月24日（日）①13：30～ ②15：00～ ③16：30～

上映作品＝『ウルトラマンティガ外伝 古代に蘇る巨人』（2001年、円谷プロダクション）

定員＝各回先着150名

☆ウルトラセブン上映会＋お絵かき会

日時＝8月30日（土）①13：30～ ②15：00～ ③16：30～

上映作品＝ウルトラセブン第3話「湖のひみつ」（1967年、円谷プロダクション）

定員＝各回先着150名

※ いずれの回もDVD上映です

★特別講座 会場＝世田谷文学館 文学サロン

☆エム教授の「人工知能」集中講義

人工知能は作家になれるのか?! 星新一のショートショートに挑む「作家ですよ」プロジェクトを手がける松原仁教授に、最先端の研究についてお話しいただきます。

日時＝8月23日（土）14：00～15：30

講師＝松原仁（公立はこだて未来大学教授）

定員＝150名（事前申込制）

参加費＝500円

申込締切＝8月9日（必着）

### ★筒井康隆 朗読会

SFにとどまらず常に新たな文学世界に挑み続ける作家であり、俳優でもある筒井康隆氏に最新作を朗読していただきます。

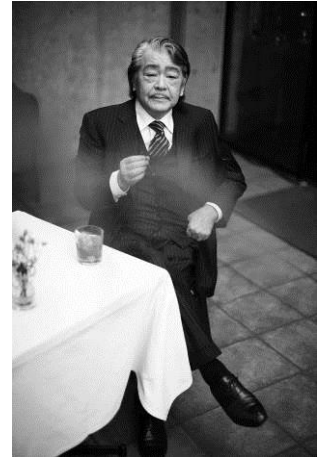
日時＝9月14日（日）18：00～

出演＝筒井康隆（作家）

定員＝150名（事前申込制）

参加費＝1,000円（ドリンク付き）

申込締切＝8月31日（必着）



筒井康隆 提供：朝日新聞社

### ★豊田有恒×夢枕獏 対談「日本SFの未来」

小説・アニメほか多彩な才能で日本SF界を支える豊田有恒氏と、日本SF第二世代にあたり、独自の世界を築く夢枕獏氏。親交の深いお二人に日本SFの未来について語っていただきます。

日時＝9月28日（日）14：00～15：30

出演＝豊田有恒（作家）、夢枕獏（作家）

定員＝150名（事前申込制）

参加費＝500円

申込締切＝9月14日（必着）



浦沢直樹

### ★学園祭 会場＝世田谷文学館 文学サロン

#### ★浦沢直樹×難波弘之 トーク&ライブ

日本SFを愛し、音楽仲間でもあるお二人によるスペシャルライブです。

日時＝9月7日（日）18：00～

出演＝浦沢直樹（漫画家）、難波弘之（キーボーディスト、SF作家）

定員＝150名（事前申込制）

参加費＝1,000円（ドリンク付き）

申込締切＝8月24日（必着）



難波弘之

#### 参加申込方法

事前申込制のイベントについては、各締切日までに往復ハガキにて、①イベント名、②参加者全員の氏名（小・中学生対象のイベントについては学年も付記）、③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、下記宛先まで。返信用にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。申し込み締め切り後、応募者全員に返信します。

<宛先>

157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館 「日本SF展」係

## ★そのほかのイベント

### ☆第2回 日経「星新一賞」関連イベント

#### 「宇宙！ロボット！SF作家デビュー！？」

#### 夏のワクワク体験と、物語づくりを学ぶサマースクール」

宇宙の話の聞いたり、ロボット製作をした体験をもとに、物語をつくるワークショップを開催します。

[共催]「星新一賞」実行委員会

日 時＝7月26日(土)・27日(日) 10:30～16:30

\*1日コースです。ご希望の日をお選びください

会 場＝世田谷文学館 文学サロン

講 師＝午前の部 26日：名村栄次郎(JAXA)「宇宙のヒミツ」

27日：Joe Nagata「ロボット製作体験」

午後の部 26日・27日共通：江坂遊(作家)「ワークショップ 小さな物語の作り方」

対 象＝小学5年生～中学生

定 員＝各日35名(事前申込制)

参 加 費＝無料

申込方法＝7月12日(必着)までに往復ハガキにて、①イベント名、②参加希望日、③参加者全員の氏名(学年も付記)、③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、下記宛先まで。返信用にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。申し込み締め切り後、応募者全員に返信します。

<宛先>

157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館 「日本SF展」係

### ☆ 100円ワークショップ「SFプラ板を作ろう！」

日 時＝8月2日(土)、31日(日)、9月6日(土)

13:30～15:30(9月6日のみ14:00～15:00)

会 場＝2階講義室

参 加 費＝100円

### ☆ ホシヅルの日@SFの国

星新一の誕生日を記念するホシヅルの日に、次女の星マリナさんをお招きし、トークイベントを開催します。

日 時＝9月6日(土) 13:00～14:00

会 場＝2階講義室

定 員＝当日先着40名

参 加 費＝無料

# 「日本SF展・SFの国」 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 広報担当 行  
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスにてお申し込みください。EメールにてJPEGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

## 【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 \_\_\_\_\_

媒体種別 \_\_\_\_\_ 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト

発売・放送・更新予定日 \_\_\_\_\_

御社名 \_\_\_\_\_

御担当者名 \_\_\_\_\_

御住所 \_\_\_\_\_

Eメールアドレス \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ FAX番号 \_\_\_\_\_

画像（ご希望の画像番号に印をつけてください）

画像01 (P1) 画像02 (P4) 画像03 (P5) 画像04 (P5)

画像05 (P6) 画像06 (P6) 画像07 (P7) 画像08 (P7)

画像09 (P7)

読者プレゼント用招待券をご希望の方は、いずれかに印をつけてください

5組10名様分 10組20名様分